

## 座談会『慶應連合三田会大会の 新たな姿を目指して』



茂木修  
2020年  
慶應連合三田会大会  
実行本部長

野間省伸  
2021年  
慶應連合三田会大会  
実行本部長



第3回 11月27日(金)

### 「来年こそは 新たな誓い」

新型コロナウイルスの世界的流行を受け、無念の中止となってしまった2020年慶應連合三田会大会。そして、未だ予断を許さぬ状況下で、次回2021年の大会開催もさまざまな可能性が想定されます。例年にはない対応が求められる中、準備はどのように進められているのでしょうか。

前回に引き続き、2020年大会より茂木修実行本部長、2021年大会より野間省伸実行本部長を迎え、2021年慶應連合三田会大会に向けての展望をお伺いしました。

#### さまざまな可能性を想定しながら開催を目指す

茂木実行本部長(以下敬称略) 今年は開催が叶いませんでしたが、来年こそは大会が開かれてほしいと願っています。

野間実行本部長(以下敬称略) 現在、4つのパターンを想定して準備を進めています。1つ目は、従来通り日吉キャンパスでの大会実施に加えて、デジタル化を導入するパターン。2つ目は、日吉で実施するが、参加者数が半分ほどになる場合に、オンラインで地方や海外など遠隔地の塾員の方々が参加できるようにし、参加者数の維持を目指すパターン。3つ目はデジタルのみの開催。こちらはすでにオンラインで開催している三田祭やSFCのイベントの事例も参考にしながら、検討を進めています。4つ目は中止です。



#### デジタルの導入でさらに参加者が喜べる大会へ

茂木 2020年大会でも進めていく予定だったデジタル化、オンライン化についての検討が進められているとのことですが、現時点でどのようなことを考えられているのですか。

野間 デジタル化は本来であれば毎年、一步一步進んでいく予定でした。しかし、2020年が開催中止となった状況で、新型コロナウイルスの終息が見えない中、2021年はデジタル、オンラインのみでの開催となる可能性も考えられます。そのような背景から、デジタル化については実行本部の中でも重点的に話し合われています。従来の大会は実施しつつ、デジタル、オンラインを導入して、どういったことができるのかについても考えている最中です。

茂木 大きな改革のタイミングとなるかもしれませんね。

野間 デジタル化をすることによって、参加される方々に喜んでいただけるような形にしたい。各部会で何ができるのかを話し合っています。また、それを次の幹事に引き継いでいけるように、2022年大会の方向性も考慮しながら、どう繋げていこうかと考えています。

茂木 それは重要ですね。私たちも、次の代と話して3年計画で予算を組んでいこうと話していました。特にデジタル化などは、そういった方法をとっていかないと1年で実現するのはなかなか厳しい部分がありますね。



#### 日吉での開催に向け感染拡大防止策を徹底

野間 もう1つ重視しているのは、新型コロナウイルス対策です。日吉での開催の準備にあたっては、今まで通りの運営にプラスして、まずはコロナウイルス対策を考えてほしいと各部会長に伝えています。受付、イベントなど各部会で、それぞれに必要な対応を考えています。来年、無事に日吉で実施されるとしても、感染拡大防止策は必須になると予想されます。

茂木 なかなか今後の予想がつかない状況の中で、複数の可能性を想定しながら準備を進めるのは簡単なことではないと思います。来年こそはと期待しています。

今回は「新常态でも若き血つなぐ 連三田進化論」をテーマに、デジタル化、オンライン化の具体的な展望や課題、そして連合三田会大会の存在意義、両本部長の大会への想いをお話いただきます。

(構成:2020年三田会 岡田理恵、加藤みれい 撮影:金田千愛)